

さっぽろラウンドウォーク憲章

Sapporo Round Walk Charter

札幌は、豊平川を中心に広がる豊かな環境のなかで歴史を刻み、発展してきました。地名の由来がアイヌ語の「サッ・ポロ・ペッ（乾いた・大きな・川）」または「サリ・ポロ・ペッ（その葦原が・広大な・川）」であることから分かるように、古来よりアイヌをはじめ様々な人々が暮らしを営んできたことで、札幌には特色ある歴史文化が形成されました。

現在でも、その足跡が市内各地に点在しており、市民の憩いの場として、観光名所としての賑わいを見せています。市街地には農村風景も広がり、コメや野菜の生産地の風景や乳牛を主とした酪農場も見ることができます。大通公園を象徴とした都市計画によるまちづくりも明治期以降の開拓の歴史を語る上では貴重な財産です。札幌市ではそのコンセプトのひとつに環状グリーンベルト構想や緑のネットワーク構想を掲げ、緑豊かな住みよいまちづくりが展開されてきました。さらにまちの南西には市中を見渡すことができる山岳地帯も連なっており、札幌の魅力の一つになっています。また、市内各所に河川が流れ、緑と清流のまちとしての住環境も豊かです。

さらに、1972年に開催された冬季オリンピック札幌大会以降、国際観光都市の役割も担い、北海道観光の拠点都市の一面を持ち合わせるようになってきました。

私達は先人によって築かれたこの札幌のまちなみや住環境、歴史や文化、自然資源など誇れる財産を継承し次世代に引き継いでいかななくてはなりません。「さっぽろラウンドウォーク」はこうした思いを「歩いて見て、触れ、感じる」ことで実現する道とするために誕生しました。歩くことの楽しみや、先人のまちづくりに対する思い、それによって形成される人々の営み、新たな交流が生まれることによる資源の再認識を目指し、ここに6つの憲章を掲げます。

- 1, 豊かな緑と水をはぐくむ自然を感じる道とします (自然保護)
- 2, 郷土を知り、守り、その誇りを伝える道とします (郷土学習)
- 3, 健康づくりを促進する道とします (健康づくり)
- 4, 札幌の価値を高める観光資源としての道とします (観光資源)
- 5, 市民協働で守り伝える道とします (市民協働)
- 6, 多くの人に親しまれ、子や孫に伝える道とします (持続可能性)